



No.119
2023.11.27

SEA NEWS



- ① … 「他人事ではない」……県シニアサッカー連盟O-40・2部リーグにおける重大インシデント発生
埼玉県シニアサッカー連盟 理事長 榎村 憲二
- ② … リスペクト企画第3弾 「指導者養成の現場から指導者を変えられるのか？」
- ③ … 「JFA GK-L1講習会」県内開催に向けて GKコーチ座談会～埼玉で育む「GK」文化構築を目指して～
- ④ … ヴィオレタFC、初出場で初優勝～JFAバーモントカップ 第33回全日本U-12フットサル選手権大会
- ⑤ … 大会記録●県内大会 1種
- ⑥ … 大会記録●県内大会 3種・女子
- ⑦ … 大会記録●県内大会 女子 ●県外大会 1種・社会人・自治体・大学・2種高体連
- ⑧ … 大会記録●県外大会 2種クラブ・3種・中体連・3種クラブ
- ⑨ … 大会記録●県外大会 4種・女子・シニア・ビーチサッカー 編集後記

●発行/公財)埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18 シャトー雁ヶ音204 Tel 048-834-2002・Fax 048-834-2004 <http://www.saitamafa.or.jp/>

「他人事ではない」……

県シニアサッカー連盟 O-40・2部リーグにおける重大インシデント発生

埼玉県シニアサッカー連盟 理事長 榎村 憲二

7月2日に開催された「O-40・2部リーグ」の試合後、出場した選手が体調を崩し、その場で意識を失い、心臓停止状態で倒れてしまいました。同チームの選手によりすぐに発見され、その場に居た各チームの選手等がAED使用および心臓マッサージなどの蘇生措置を行い、その後ドクターヘリにて病院に搬送されましたが、残念ながらその日の夜、本人の死亡が確認されました。享年42歳。あまりにも早すぎる突然の別れでした。

我々の仲間であった故人の御冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、御遺族の深い悲しみに心より哀悼の意を表します。

●当日データ

会場は吉見町ふれあい広場 陸上競技場。

試合開始時間12時55分。前後半30分ハーフ。交代は自由。

WBGT値は前半開始前28.3℃、後半開始前27.4℃。

クーリングブレイク3分間を前後半各1回。

AEDは県シニア連盟で常備し、今回使用。

死因は心筋梗塞とのことでした。ただし、熱中症が原因になっている可能性も否めないとのドクターの所見があり、県シニアサッカー連盟として以下の対応策を立て、全チームに通知しました。

- 1、7月度、8月度における全カテゴリーのシニアサッカー連盟事業活動をすべて中止、延期とします。
- 2、シニアサッカー連盟に加盟している各チームにおける当該期間の活動については、シニアサッカー連盟として制限はしないものの、各チームおよび個人による責任のもと、十分な暑熱対策を講じたうえで活動していただくよう、チーム代表者および監督による管理徹底をお願いいたします。
- 3、9月度から再開されるシニアサッカー連盟公式戦においては、WBGT計の計測値にかかわらず、すべて「クーリングブレイク」を適用します。
適用方法については、前半1回、後半1回、それぞれ4分間ホイッスル to ホイッスルとし、3分間はアディショナルタイム、1分間はランニングタイムとします。
なお、会場借用時間の都合により上記対応が困難な場合は、前半2回、後半2回、それぞれ2分間ホイッスル to ホイッスル

の「飲水タイム」を適用し、2分間はアディショナルタイム、2分間はランニングタイムとします。

- 4、「クーリングブレイク」または「飲水タイム」の適用については、試合開始前のマッチコーディネーションミーティングにて決定する。「クーリングブレイク」および「飲水タイム」では、選手全員（審判員を含む）が必ずピッチサイドのチームベンチに設置しているテントに戻り、日陰で休憩をし、水以外のポカリスエット、アクエリアス、OS1やタブレットなどで水分および塩分の補給を行うこと。水以外の飲料が認められていない会場では、ピッチサイドから離れた更衣場所や建物付近などの日陰に移動し、水分および塩分の補給を行うこと。

当該対応については、チーム監督または監督代行など、当日のチーム責任者にて自チームの選手全員が必ず上記対応を行っているかの確認をお願いするとともに、その管理を絶対に怠らないよう細心の注意を払っていただき、選手の安全を確保していただきますよう、くれぐれもよろしくお願いたします。

また、来年度の事業計画では、7月、8月の活動はすべて中断することとしました。年々、猛暑から酷暑へと移行する中、該当月における活動は危険であると判断しての結果です。ただ、9月以降の再開に向けて、ケガ防止なども鑑みても必要なことです。チーム、選手個々での対応を十分にいただき、二度とこのようなことのないよう、全員で防がなければなりません。

今回の事故は当然ながら、県シニアサッカー連盟だけではなく、埼玉県サッカー協会につながる全種別でも同様です。次年度の事業計画立案に際して、選手たちをリスペクトし、十分な配慮をお願いいたします。合掌。

※7月14日、Jリーグは夏季期間（7月14日～8月27日）における「飲水タイム」実施ルールについて、以下のとおり変更することを決定しました。

- ・夏季期間は、WBGT値(湿球黒球温度)に関わらず飲水タイムを原則実施する。
- ・ただし、WBGT値が実施基準値以下かつ気象条件などにより両チームが合意した場合は飲水タイムを実施しないことも可能とする。

リスペクト企画第3弾

「指導者養成の現場から指導者を変えられるのか？」

1回目はフェアプレー・規律委員会の取り組みを紹介し、2回目では「技術と審判の協調」に向けて、技術委員会と審判委員会の座談会を開催しました。今回は、指導者養成の現場でどのようにリスペクト、フェアプレーの重要性を伝えられているのかを伺い、今後どう伝えていくべきかを考えていただきました。

(司会・構成／荒川裕治【広報・技術・女子委員】)

参加者

土橋 正樹 (浦和レッズ/JFA関東サブコーチ/SFA指導者養成部チューター)
山崎 茂雄 (SFA HOC/FA コーチ/SFA指導者養成部会長)
笹川 智久 (SFA指導者養成部チーフチューター)
山本 大 (SFA指導者養成部サブチーフチューター)

アクティブラーニングで対話の中で学ぶ

——「リスペクト」の第三弾です。やはり、そもそも指導者に理解してもらおうことが大きな課題ではないかと思いき、今回は指導者養成の現場での現状、及びこれからをお聞きしたいと思います。今、どのようにリスペクト、フェアプレーについて講義されているのでしょうか。まずは現状を教えてくださいませんか。C級コーチ講習会ではいかがですか？ 山本さん、お願いします。

山本 C級ですが、初日の「ガイダンス」でリスペクトについてはお話をさせていただいています。日本だけでなく、FA(イングランド)でもまだまだ十分に理解されているとはいえません、という話をして、JFAの各キャンペーン(「リスペクトプロジェクト」「JFAサッカーファミリー安全保護宣言」「JFAセーブゲーティングポリシー」など)を紹介しています。紹介した上で「皆さんは意識していますか？」という投げかけをするようにしています。



山本 大氏

講義として、「サッカーの競技精神」があります。ここで審判の重要性やサッカーをする上で大切なことなどを伝えています。具体的には、グループを作ってもらい、その中で具体例を話していただくアクティブラーニングを進めています。参加者には「選手に何を伝えておくべきと考えますか」などを設問として用意しています。あとは、ルールとかですね。

——ありがとうございます。しかしながら「C級では何を学んでいるのか？」という声が聞こえてくるわけです。やはり、一度講義を聞いただけでは、なかなか浸透しないというのが現状なんじゃないですか。D級講習会ではいかがでしょうか。笹川さん、お願いします。

笹川 D級講習会では、毎回話をさせていただいていますが「皆さんが、サッカーを始めた子どもたちの最初に出会うコーチになるでしょう。彼ら彼女たちにとってはサッカーの「入り口」で待つ、皆さんの役割は大きい」と。

先程の山本さんの話に付け加えさせていただきますが、C級とD級の共通講義として「大人の関わり」があります。そこでは主に指導者の立ち振る舞い、「グッドスタンダード」(子どもを一人の選手としてリスペクトし、子どもの良い見本になること)のレベルを上げていく

ことが大切だと伝えていきます。

また、子どもたちの指導には、保護者、さらには地域の皆さんの協力が不可欠です。大人同士が協力して、たおやかな成長を促していきましょうと話しています。

——指導者自身の成長だけでなく、保護者や地域の皆さんとの連携という話も出ていますね。「大人」が大事ですね。ありがとうございました。それではB級講習会での様子は、担当チューターでもある土橋さんをお願いしてよろしいですか。

土橋 以前は、起きた現象の紹介をしていました。それを「なぜ、その現象が起きてしまったのか？」という議論にしました。実際に何に困ったのか。どう対応しているのか。具体的な例は、ここではお話しできませんが、その紹介する現象の多くは現実起こったことですから、皆さん、興味を持っていただけます。



土橋正樹氏

そこで話題になるのは「日本の教育」です。まだまだ、スポーツではなく「体育」という考え方が残っています。そういうことを踏まえて、これからどうすればいいのかを話しています。

しかし、私たちサッカーをやっている者には立ち返る場所があります。JFAの理念です。

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

さらにビジョンとして、

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。

サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。

常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

理念、ビジョンは大切だと思います。SFAはもちろん、私が所属する浦和レッズもJFAにつながっています。そしてそれぞれに大切な役割を与えられています。そして、指導者の皆さん、審判の皆さん、選手の皆さんもそうです。こういうことを理解して、受講していただきたいですね。

山崎 参加者の皆さんにも事例を出してもらえますか？

土橋 「こんなことがあったんですよ」「気を付けたほうがいいですよ」など、いわゆる伝達しているという感じです。

山崎 コンプライアンスの部分も含めてですか？

土橋 先日受講したFIFAのワークショップでも、その部分の伝達が強かったですね。ただその目的が大切です。ですから、B級の参加者の皆さんには「目的を達成するために何をすべきか」を考えてもらい、意見を出し合うように進めています。そこで、JFAの理念・ビジョンという立ち返るところに繋げて、アクティブラーニングをしてもらいます。

山崎 チューターの腕の見せ所ですね。

土橋 とにかくチューターには、求められることが増えていますね。

山崎 グループワークして発言してもらおうにしても、結論を出すのは

難しいことです。チューターはファシリテーターとして「導き」をしていかなければなりません。発問力、知識、経験が必要になっていきますね。そして、導くプロセスも大事で、結局は参加者が理解してくれるかどうかです。

ベクトルを自分に向けられるかどうか

山本 私が大学で教えている学生たちの中には、ここまで暴言・暴力がある中で育ってきています。その学生は暴言・暴力を容認してしまっているんですね。だから、たまに「少年団に顔を出してきた」という学生から、こんな話を聞きます。「コーチが丸くなった。だから弱くなった」と。

土橋 指導者は学ばなければならないのです。トレーニングの一つひとつ、目的をはっきりさせなければなりません。

なぜ暴力・暴言がいけないのか。コーチングが変わってきているのはなぜか。そういう背後にあるものを学ぶ必要があります。例えば、その指導者の一言が将来、どのように役に立つのかということ想像してほしいですね。

山崎 ベンチからの適切な「一言」って、即効性があるんですよ。言われた瞬間「やんなきゃ」って気持ちになるんですね。それはそれでプレイヤーのポテンシャルが高いと変わるんですよ。

土橋 でも、ベンチからの暴言って、なぜか同じような言葉の繰り返しなんですね。指導者養成で学んでいても、同じことを言っているような気がします。なぜでしょうか。講習会などでの話が落とし込めていないのは課題です。

山本 子どもたちが上手くできない理由を「私の指導のせいかな?」と思わないのでしょうか。

土橋 ベクトルを自分に向けることができないんですね。

山本 講習会では暴言などしない指導者も、どこかで指導現場と講習会を「そこはそこ」「ここはここ」と意識を替えているような気がします。

土橋 チームとして上手くいかなかったときに、「(指導者の)素」が出てくることも見受けられます。日常のトレーニングをどう見るかです。

これからチューターは「メンター(助言者)」としても活動が求められています。ライセンス取得後も、しばらくサポートすることになっていますよね。どこまでできるかわかりませんが、そういう役割も求められてきましたね。

山本 神奈川ではすでに取り組んでいます。

土橋 資格を取ってくれた指導者へのケアをどうしていくのかも、大きな課題です。

山崎 指導者が自分自身にベクトルを向けてくれるかどうかは大事なことです。それが一番大事な目の前にいるプレイヤーたちにベクトルを向けてしまっています。

——本来ならば、プレイヤーの背中を後押ししてくれる存在のはずなのですが。

山本 それが「上手くできないから」とイライラしてしまうわけです。

土橋 要は「オープンマインド」「プレーヤーズ・ファースト」をどこまで自分の中で整理できるかです。正直、受講しなくても「オープンマインドとは何か」ということは、わかる人にはわかるのですから。

——とにかく「伝える」のが難しいわけですね。

土橋 中には集団で刺激を受けることによって、気づく人もいます。だから、ライセンス講習会は大事なのです。「気づける場」でもありますから、そういうことも発信できればと。

ただ、その発信も見えない人は気づきません。ですから、どのようにオープンにするかは永遠の課題のような気がします。そして、我々も地域に出向いていくことが大事だと思います。

——そういうことを考えると「リフレッシュ研修会」は重要な存在になるのではないのでしょうか。1日で終わりますので、こちらからも出向いていくことができますよね。

山崎 明日(9/30)、リフレッシュ研修会があります。早速、フェアプレー、リスペクトの話もしてみましょう。山本さん、いいですね?

山本 グループワークで行えるといいですね。

——そのリフレッシュ研修会は、今年から内容を変えましたね。笹川さん、説明していただけますか。

リフレッシュ研修会の重要性

笹川 これまでの講義内容というと、各担当のチューターにお任せしていました。その内容も事前にお知らせすることはありませんでした。どちらかというと、テーマを設定した上での指導実践が中心だったのです。

それが今年からは、技術委員会として「SFA フットボールフィロソフィー」を発表し、指導者養成も改革してします。山崎 HOC からの提案で、このリフレッシュ研修会も年間でコンテンツをはっきりさせ、狙いも明確にしました。これにより「受講しやすくなった」という声をいただいています。実際、特色のあるコンテンツが揃っていると思います。

この流れの中で、来年度から「リスペクト」をどう入れるのかは、検討していきたいですね。また、JFA 技術委員会が提唱している「セーフガーディング」研修会も、リフレッシュ研修会として開催していくことも検討事案になっていくと思います。2時間の講義であれば、リフレッシュポイントは10ポイントとなります。

C級のガイダンスでもこういう話はしていますし、講義でも行っていますが、「目指すべきコーチ像」が薄らいでいるのかもしれない。——ある程度、講義の時間も必要ではないかと思います。一過性のもではありませんから。

山本 確かに。とはいえ、現状として研修会のプログラムは講義、指導実践を上手くリンクさせていかなければなりません。リスペクトを理解してもらう時間を割くのであれば、そこを変えていく必要性がありそうですね。リスペクトという考え方を現場で役立たせてもらいたいものです。

土橋 指導実践の後で、コーチ役の方にこちらから発問するじゃないですか。上手く答えられない方がいらっやいます。これは頭の中で「この質問はどういう意味か」を整理できていないからだと思われれます。中には、最後まで答えられず、何も言わないまま終わる方もいらっやいますが、もしかしたら何を質問されているのかわからないのかなど。もう少し「サッカー理解」を深めていただきたいと思っています。

山崎 中にはですが、経験のある人ほど「そうですね」と即答してくれます。ただそこで、深みのある話ほどバイアス(先入観)が働く場合もあり、その後のやり取りで「感覚的腹落ち」がしていないと感じるときがあります。

これは本人のサッカーと向き合う姿勢が、少なからず影響しているのではないかと思います。

山本 リフレッシュ研修会こそ、その意識を変えるチャンスになるということですね。

——そのリフレッシュ研修会ですが、実際に変化は感じられているのでしょうか。



笹川 智久氏

山崎 先日のリフレッシュ講習会ではアンケートを実施しました。「SFA フットボールフィロソフィー」については、概率的には理解できるという声が多く、ホッとしています。指導実践を行う前のウォーミングアップでは、すでにC級講習会では導入済みですが「SFA フットボールフィロソフィー」の「Fundamental フィロソフィー」に基づいたパス&コントロール、ドリブルを取り入れたところ、皆さん、興味を持って取り組んでくれました。Jクラブのユース出身の参加者の皆さんからも好評でした。

テーマは万人向けです。ただFAとして個性を持って取り組むことのできる事業です。今後は個別対応の検討も視野に入れていますが、それも「SFA フットボールフィロソフィー」に掲げている指導の価値観、さらに今回の座談会のテーマでもある「リスペクト」の意識があってこそ、です。リフレッシュ研修会そのものを、エッジの効いた情報発信の場にしたいと考えています。

チューターの資質向上も

——リフレッシュ研修会に参加してもらおうのは、C級、B級の方たちです。指導者養成部としてはどのように取り組めばいいとお考えですか。要はもっと多くの方たちに参加してもらいたいということです。土橋さん、いかがですか。

土橋 C級講習会のカリキュラムが変わり、まずチューターに関してですが、膨大な量の知識を吸収しなければならなくなりました。その吸収した知識をどう整理していくかですね。

チューターは何を大切にしていくのか？ 参加者が現場で生かすことのできる技術を身に付けてもらえるよう指導しなければなりません、「心の育成」にどのくらいウェイトを占めていけばいいのかも、導いていかなければなりません。

例えば、子どもにとって初めて出会う指導者は、多岐にわたる能力が求められるわけです。参加者には、その「なぜ多岐にわたる能力が求められるのか」を、講習会を通じて学んで、深めていって、気づいてほしいですね。今、チューターに求められている大きな仕事です。具体的には、ファシリテーターとしての力が求められています。

——ありがとうございます。まずはチューターの意識、資質向上ということですね。山崎さん、いかがでしょうか。

山崎 2つあります。一つはもっとSFAフットボールセンターが身近な存在になるということでしょうか。現在は加須に1か所ですが、なんとか東西南北、それぞれに1か所は欲しい。

2つ目は、内容に関わりますが、口コミって大事だなということです。いろいろと広報をさせていただいていますが、仲間同士の中で「C級、行ったほうがいいぞ」「C級、本当によかった」と言ってもらえるかどうかです。時間はかかるでしょうが、少しずつ輪を広げていきたいですね。

——その裏付けとして、内容ですよ。技術委員会のホームページのブログでも簡単な開催報告をしていますが、こちらを受講してみようと思ってもらえる「きっかけ」の一つになればと思っています。

土橋 すみません、追加です。

先程、チューターの力量の話をさせていただきました。やはりチューターも学び続けなければいけませんし、オープンマインドでなければならぬと思っています。

そしてもう一つ、チューターが組織的になり、専門的にやってくれる人材が必要です。「チューターがいなければできない」では困ります。



山崎茂雄氏

定期的に各所で研修会を行い、さらにメンターもできる人材を養成して配置してほしいですね。

というのは、定期的にフィードバックしてくれる環境が大事です。それを受けて、個々がブラッシュアップしていくのですから。このフィードバックにどれだけ敏感になるかが重要です。

山本 フィードバックを聞いて、ハッと気づくかどうかですね。

山崎 共感できることが多いですね。指導者養成部の講習会、研修会を身近に感じてほしいですね。S級、A級は別として、B級、C級をどう身近に感じてもらえるかですね。「受講してよかった」と思ってもらえるライセンス講習会にしていきたいものです。

発信力はまだまだ低いけれど、やっていくことが大事ですし、毎回毎回、開催報告をアップしていくことが大事ですね。

コンテンツとしては、JFAの基本理念を押さえつつ、「SFAフットボールフィロソフィー」をどう織り込んでいくのが課題だと思っています。そこで重要なのが、リフレッシュ研修会です。

例えば、2種の指導者は4種のサッカーをあまり観ていないのではないのでしょうか。きっかけとして、立教大学の沼澤秀雄教授をお招きしての「ジュニア年代からの動きづくり」をテーマとしたリフレッシュ研修会もあります(9/30分は終了。次回は2/17)。4種の指導者に関しては、技術委員会内で少しずつ浸透している「Whole埼玉」の意識を高めるきっかけになればいいと思っています。

土橋 埼玉県は他県よりも「強み」が多いと思います。逆にだからこそ、いろいろなことが起こるのだと思うのです。そういうことを踏まえて、埼玉の独自性を求めていく必要があるのではないのでしょうか。少子化の中ではありますが、サッカー人口を増やしつつ、いい環境を整えていくことが大切ですね。

——ありがとうございました。まずはD級でもいいので講習会に参加いただきたいですね。自信をお持ちであれば最初からC級でもいいと思います。とにかく、ピッチに立って指導されるのであれば、講習会で知識を身に付けてほしい。知識はFundamentalであり、指導者同士の共通言語だと思うのです。役員活動されている方も同様です。学び続けることで「サッカー理解」が向上し、リスペクトやフェアプレーの意識も向上すると思っています。

笹川 やはり「指導者は学ぶことをやめた時、教えることもやめなければならない」(ロジェ・ルメール/元フランス代表監督)と「指導者は選手の未来に触れている」(アンディ・ロクスブルグ/AFCテクニカルダイレクター、元UEFA技術委員長)という言葉をお忘れはならないと思います。

——名言ですね。今後ともよろしくお願いいたします。



『JFA GK-L1 講習会』県内開催に向けて GKコーチ座談会～埼玉で育む「GK」文化構築を目指して～

今年度から、関係者の悲願でもあった「JFA GK-L1 講習会」が県内で開催されることになりました。県内からは松本暁司氏(元 SFA 会長)、横山謙三氏(前 SFA 会長)、川島永嗣選手(RC ストラスブール/フランス)、さらに鈴木彩艶選手(シント＝トロイデンVV/ベルギー)と、日本代表 GK を輩出してきました。元々の土壌があるからこそ、講習会が始まることで GK 育成にますます熱が帯びることが期待されています。

また、今年度から発動している「SFA フットボールフィロソフィー」の GK バージョンも待たれるところです。今回は、県内 J クラブと WE クラブの GK コーチ、そして県技術委員会 GK プロジェクトのメンバーが集い、現状と次世代の育成について語っていただきました。(司会・構成/荒川裕治)

参加者

安藤 智安氏 (浦和レッズジュニアユース GK コーチ)
江角 浩司氏 (大宮アルディージャ U15/U12 GK コーチ)
山郷のぞみさん (ちふれ AS エルフェン埼玉強化部/元なでしこジャパン GK)
上原 克彬氏 (GK プロジェクトリーダー/大宮南高校)
中村 和彬氏 (GK プロジェクトサブリーダー/浦和東高校)
山崎 茂雄 (SFA HOC/FA コーチ)

ピンチを防ぎ、攻撃の起点に

—それぞれ GK の魅力を語っていただきながら、自己紹介をお願いします。

上原 GK プロジェクトダイレクターになって5年目です。「これは決まった」と思われる FW のシュートを止めること。あとは DF 陣が「やられた」と思うような突破、シュートを止めてチームを救うことでしょうか。GK って、勝ち負けのところ、ギリギリで勝負していますからね。

江角 大宮アルディージャで U12、U15 の GK コーチをしています江角です。試合結果を大きく左右する、決定的な場面を止めることです。得点することと同じくらいの価値があると思うんです。プレッシャーに耐えることもそうです。リアクションの状況でいかに「(相手に)シュートを打たれるのではなく、打たせるのか」という楽しさもあると思っています。よろしくをお願いします。

山郷 今年から現場を離れて、強化部に入りました。7年前、引退した後に JFA の GK プロジェクトの一員として、埼玉の GK トレセ

ンに呼んでいただいたこともあり、懐かしく思っています。

GK ですよね。今は攻撃の起点としても期待されています。GK の自分も得点に絡めるということは、技量も求められるということです。日々、より高いレベルを求められているのが魅力ですね。

安藤 浦和レッズジュニアユースの GK コーチをしています。GK の魅力はシュートを止めて、勝利に貢献することです。唯一、手を使ってもいいポジションで、ユニフォームも違います。そしてリーダーシップが求められること、でしょうか。

中村 GK プロジェクトのサブダイレクターです。サッカーにおいて一番テンションの上がるシーンはゴール前だと思います。そのゴール前の攻防でスタジアムを沸かせるのが GK の醍醐味だと思います。

—山崎さんは GK ではありませんが、どのような認識をされていますか。

山崎 HOC の山崎です。今回はオブザーバーで参加させていただきます。GK は、その圧倒的な存在感ですね。半面繊細さも必要なポジションだと思っています。先程、山郷さんからもありましたが、ジュニアの年代から足元の技術が求められてきています。それだけ重要なポジションだと認識が高まっていますね。

GK を好きな子どもたちを育てたい

—ありがとうございます。それではご存じだとは思いますが、まずは GK プロジェクトの現状について、上原さんからお願いします。

上原 はい。このプロジェクトは、中高生の GK に技術指導を定期的に行うことを目的に始められたもので、現在は東南部と西部、北部のエリアで、それぞれ全7回のコースが一年間に渡り開催されています。

東南地区では U16 (高校1年生、中学3年生)と U14 (中学2年生、中学1年生)の種別に分けられており、参加については、中学1年生、高校1年生に限り、オープン参加としています。

また U15 は6月末、U13、14 は11月末に、それぞれ全県から選抜された優秀選手が県 GK キャンプに参加。また13歳、14歳から2人ずつセレクトされ、関東 GK キャンプに参加することになっています。



上原 克彬氏



この GK プロジェクトは、当時の浦和レッズと大宮アルディージャの育成 GK コーチを務めていた方々と、2種高体連の高橋智氏（現・寄居城北高教諭）、江口洋氏（現・松山女子高教諭／県高体連女子部部长）によって2004年からスタートしたと聞いています。今でこそ私（大宮南高）や中村（浦和東高）のように、県立高校でも GK コーチがいるチームもありますが、当時は GK の指導が浸透していなかった中で、しっかりと技術指導を行ってほしいという目的で始まりました。

当初は参加人数も少なかったそうですが、徐々に活動が浸透してきて、現在は多くの中高生がプロジェクトに参加してくれています。中学生と高校生と一緒に練習することで、その中で交流もできるので、中学生からすると高校生を見て、将来の自分をイメージすることができるようです。

指導にあたっては、高校の教員が多いですが、中学校や特別支援学校の教員、大学の指導者、3種クラブの指導者、GK プロジェクト出身の大学生などです。GK の指導ができる人は随時募集中です。

さて、ここから最終目標は「SFA フットボールフィロソフィー」にもあるように日本代表になるような GK、欧州 5 大リーグで活躍できる GK を育てていきたいのですが、それと同時に GK が大好きで、楽しくてやりがいがあるから GK をやりたいという子どもたちを増やすこと、GK であることにプライドを持って、ピッチで躍動できるプレーヤーを数多く育てていきたいと思っていますところなんです。

—ありがとうございます。何かご質問、ありますか？

山郷 1月の関東トレセンには何名派遣することになっていますか？

上原 各カテゴリー 2 名です。

山郷 女子はどうしていますか？

上原 いま、3年ぶりに尚美学園大学で GK の女子トレセンを行っています（10/2,11/6,12/18 に尚美学園大学にて実施予定）。U12 については、男女一緒に行っています。ただ、次第にフィジカル面での違いが出てきますし、プレーエリアでも差が出てきています。フィットネス系の強化が求められているところなんです。

しかし、多少考慮すべきところはありますが、男女の差は大きくはないと思っています。

安藤 県内の GK キャンプの人数構成はどうなっていますか？



上原 東南で 5～6 名、西部と北部で 3 名ずつ、そして東西南北の支部推薦で 3 名。24 名程度の中から 2 名に絞ります。

安藤 狭き門なんですね。こちらから、議論のテーマを出させていただいてもよろしいですか？

グラウンドの問題です。埼玉は人工芝のグラウンドが少ないじゃないですか。そのせいか、痛がって GK をやる子どもが少ないような気がします。GK に興味があっても「ケガしちゃうから」と敬遠されてしまう話を耳にします。皆さん、どうお考えですか？

—安藤さん、ありがとうございます。ここから行きましょう。

練習で身体を伸ばしきれる環境を

安藤 レッズやアルディージャでは、小学生年代からセービングできる環境があります。振り返ってみれば、僕は高校の土のグラウンドで無理やりやっていたじゃないですか。それこそ血だらけになりながら飛んでいました。でも、今の子どもたちに対して無理に「飛べ」とは言えません。今も昔も、土の上では痛いのは変わりませんが、大事なことだと思います。



安藤智安氏

—いいですね。では、「血だらけ」になってきた皆さんの話を聞かせてください（笑）。

江角 自分はプロになるまで、小、中、高、そして大学とずっと土でした。痛いからサポーターつけて、パットをつけて……それでもズルムケになってしまっていました。そうならないために、どういうフォームがいいのかとかは考えましたけど。痛くないセービング、痛くない受け身はどうすればいいのかと（笑）。

今は SC 相模原の GK コーチの松本さん（拓也氏／前大宮アルディージャ）と話をしたときに、日本の GK はヨーロッパの GK と比べて（身体が）伸びきれていないと。そういうのも環境に影響しているのではないかと思いました。

しかし、我々は与えられた環境の中でトレーニングしなければなりません。そんな中でどうすればいいのか。例えばですが、セービングもグラウンダーではなく、ちょっと斜め上に飛び着地の衝撃を和らげるところから始めることによって、スキルを身に付けていきやすいのかなと最近思ったりしています。（身体を）伸ばしきることが大事なと。人工芝のグラウンドが多くあるといいですね。そうならばありがたいです。でも、痛くなることもありますから、だましながらですね。

山郷 まずは GK のトレーニングをどのくらい考慮してくれるのか？

ですね。指導者に GK 経験があるかどうか。GK は身体を伸ばしづらい環境では厳しいなど、情報共有ができるといいですね。理解があると場所の選び方も変わります。週 2、3 回でもいいから人工芝を、とプレゼンしていくことが大切ですね。繊細な子や痛みに敏感な子は、痛いと思うと伸びなくなりますから。

私の頃は、バレーボールで使う膝用の防具やお尻の横にクッションを入れたり、長ズボンは絶対でしたね。

上原 大宮南高校では、ペナルティエリアよりも少し狭いくらいの人工芝を敷きました。グラウンドを平らにして、ゴムチップも入れて。ウォーミングアップからローリングダウン、シュートストップまでできるようにしています。やはり身体が伸びきった状態でプレーできるような環境が必要ですね。実際、敷いた後では生徒たちの目の色が変わりました。

ただ、クロスボールへの対応は人工芝の上では難しいですね。

中村 浦和東高校では、20年前に天然芝を敷いてトレーニングしていたそうです。今は人工芝を敷いていますが少し狭いので、安全面のことを考えると思い切ってプレーできない状態です。

土のグラウンドで痛みがあると思い切ってトレーニングできませんよね。それはもったいないことです。(浦和東や大宮南では) 埼玉スタジアム第4グラウンドや与野八王子を利用するなど工夫して人工芝でできるときは思い切って練習していますが。

江角 土のグラウンドのときはどうしていますか？

中村 半袖、短パンの生徒が多いですね。夏の暑さがとんでもないですから。

上原 私の時代は、スパッツなど三枚重ねでした。思いきり飛ばせませんでした。やはりグラウンドはせめて人工芝にしてほしいですね。もっと天然芝での試合が増えると、もっと身近なものになるのですが。

とにかく、ここにいらっしゃる方々は、そういう苦難を乗り越えてこられた方々です。でも、大多数はなかなか乗り越えられないんですよ。やはりGKというポジションを「楽しい」と思ってもらいたいですね。GKの絶対数が増えることで、レベルは上がっていくと思います。

安藤 日本ではGKに人気がありません。スペイン遠征の際、現地のチームスタッフに「どうやってGKを探しているのか？」と聞いたら、逆に「どうして探すの？」と聞かれてしまいました。スペインでGKといえば、人気のポジションなんですけどね。

江角 U12では苦労しています。セレクションのときにアンケートを取っていますが、その中で「GKに興味がありますか？」という質問事項を入れています。およそ3割くらいが「ある」と答えてくれており、実際FPからGKにポジションを変えてくれる選手は増えていきます。スクールや選抜クラスの子どもたちを交えて練習試合をすることがありますが、GKがいない場合FPの子にGKをやってもらいます。ある選手に、そこでのシュートストップのスキルを見てGKとして練習参加してもらった後、入団オファーをしました。一度は断られましたが、「GKとしてチャレンジします」と連絡をもらいました。その選手は今U12で活躍してくれています！

いかに見つけるか、発掘するかですね。

——発掘するためのポイントは？

山郷 エルフエンでは小学6年生でセレクションを行います。その際、どこまで引き上げるかを考えます。ユースまで？ トップまで行ける？ かと。見るポイントとしては身長伸び方とパーソナリティです。積極性や発信力がある子はチームにとって、活力になりますからね。

ただ女子なので、母数が少ないという現状があります。実際にはGKやるという子=加入してもらって、になってしまう年もあります。年によっては、来てくれないこともありますしね。

——今、大宮南、浦和東のGKは何人くらいいるんですか？

上原 学年で3～5人です。

中村 以前は1学年10名を超える時もありましたが、今はだいた



中村和彬氏

い学年で4～7名程度です。だいたい部員11人に対して一人くらいはいますね。OBに川島選手(永嗣)がいるので、集まっている方だと思います。川島選手には忙しいに関わらず、来校していただいた際には、激励してもらおうと生徒たちにとっては励みになりますからね。目の色が違ってきますよ。

ミスを怒らないでほしい。チャレンジを褒めてほしい

——改めて環境が大事だと思いました。ありがとうございます。では、こちらからの投げかけです。GKの魅力をどうやって伝えていけばいいのか。GKをやりたいという子どもたちを増やすためのアイデアは？ いかがでしょうか。

江角 GKの子たちがより楽しく、またフィールドプレーヤーの子でもGKいいなあと思ってもらうには、もっと4種年代の指導者の皆さんが、GKに対する知識を深めていただけるといいなと思います。というのは、スカウティングで試合を観ていると、GKのちょっとしたミスに対して強い言葉が飛び出すことが多いです。また、せっかくチャレンジしたプレーなんだけれど、そこでミスしたら文句……。GKの子が下を向いちゃうんですね。観ているこちらが、心苦しくなってしまいます。問題は、子どもたちが消極的になってしまうことです。

そこで理解を深めていただきたいと思い、11月に開催されるさいたま市の北部地区の指導者講習会にお招きいただいたので、そういう意識を共有してもらおうと思っています。まずはGKに興味を持ってきて、そこから広げていくことができると考えています。

安藤 4種年代ではミスを怒らないことですね。確かにGKのミスは失点に直面します。ただ、そのミスは無くすことができるのです。また、そのGKのミスの原因は他にあるのではないかと……。そのミスだけを責められても、GKは納得しませんよね。さいたま市南部の皆さんには「ミスを責めないでください」「何が悪かったのかを教えてください」と伝えています。「指導者が怒るからGKやらない」ということもあるんです。

指導者の皆さんには、もっと心を広く持って、サッカー理解、GK理解をお願いしたいですね。

江角 GKだって、けっしてミスをしようと思ってミスをしているわけではないですからね。

山郷 お二人の話にもありましたが、子どもだけでなく、指導者に向けて伝えていくことが大事ですね。そして男女関係なく指導できるか？ という点も見逃せません。残念ながらまだまだ女性の指導者は少ないままです。女の子に対して男子コーチは「問いかけ」が難しいかもしれません。また、指導者が「教えよう」とすると、せっかくいいアドバイスをしても子どもたちは聞きたくなくなることもあります。

——子どもに寄り添った指導ができるかどうか、もありますね。

上原 なぜ私たちが「GKプロジェクト」の活動を行っているのか？ それはどのチームにもGKを指導してくれるコーチがいて、失敗しても何が原因だったかを分析してくれて気にかけてくれる、という環境がないからです。そういうコーチが一人でも増えてくれれば、GKをやりたいという子は増えると思います。

「SFAフットボールフィロソフィー」では、ヨーロッパの5大リーグで活躍できるプレーヤーの育成を目指しています。最後はそこに



山郷のぞみ氏

つながってくれると思いますが、まだまだ私たちにできることは限界があります。

そのためにも、GKを観てくれる大人が必要です。GKの知識を持って指導、サポートしてくれて、後押しをしてくれるといいですね。

—その上原さんやGKプロジェクトの皆さんの思いが、今年からスタートしますね。JFA GKコーチL-1(レベル1)の資格が、県内でも取得できるようになりました。GKコーチの皆さんはもちろんですが、「うちのチームにGKコーチがない」というチームのスタッフの方にも受講していただきたいと考えています。そろそろ告知ができると思いますので、よろしく願います。

山崎さん、いかがですか。

山崎 先程から「ミス責め」という話が出ていますが、それはフィールドプレーヤーも同じですね。C級講習会を見ても「現象」を追いかけてしまいます。やはり、分析力が必要ですね。どの場面が起きているのか。また、どうすればよかったのか。いくつか選択肢を示してあげる必要があります。

今年からGKプロジェクトのメンバーでもある鈴木さん(康和樹氏)

にもC級講習会のチューターとして加わってもらいました。FAごとにカスタマイズできるようになっていますから、GK視点も加えて指導していただけることは、埼玉の個性になると思います。

さて、ようやく「SFAフットボールフィロソフィー」のGK版に着手することになりました。今回、上原さんが叩き台を作ってくれましたので、ここからスタートとなると思います。皆さんからアドバイスをいただきながら、いい発信をしていきたいと思っていますので、よろしく願います。



山崎茂雄氏

—では、皆さんからこれからの抱負をお聞きして、締めたいと思います。中村さんからお願いします。

中村 GK指導者のレベルアップをGKプロジェクトとしても力を入れていきたいと思っています。今日はありがとうございました。

安藤 次もやりましょう。多くの人たちに集まってもらい、いろいろと話を深めたいですね。

山郷 改めて指導者の大切さを感じました。指導者への働きかけ、取り組みが子どもたちにつながるんですね。ありがとうございました。

江角 自分自身、レベルアップしていければと思います。その上でご協力できたらと思っています。よろしく願います。

上原 今日は貴重なお話をお聞かせいただき、ありがとうございました。今日、観ていただいているGKたちがさらに成長できるよう、種別を越えて連携して取り組んでいきます。そして、「SFAフットボールフィロソフィー」のGK版に、皆さんの経験を踏まえたご助言をお願いします。

—長い時間、ありがとうございました。GKコーチL-1の講習会の要項は、改めて告知してまいります。引き続きよろしく願います。



ヴィオレタFC、初出場で初優勝 ～JFAバーモントカップ第33回全日本U-12フットサル選手権大会

2004年、14年の江南南に続いてバーモントカップを制したのは、さいたま市岩槻区で活動するヴィオレタFCでした。今年チーム結成14年目、それも初めて県代表となり、一気に優勝まで駆け上がってくれました。率いるのは、元Jリーガーの佐藤昌吉さん。喜びの声を伺ってきました。

将来、子どもたちが困らないような指導を

—優勝、おめでとうございます。

佐藤 ありがとうございます。今回の優勝にはびっくりしました。でも、子どもたちもびっくりしています(笑)。正直、そこまで強くなく、有名でもないクラブです。ただ、一生懸命にやっていたらいいことがあるかなと思って、最後まで戦いました。

—優勝までのところで、ポイントになったことはなんだったのでしょうか。

佐藤 本大会でなくて、県大会ですね。それも予選リーグです。初戦(4月15日)に江南南さんと対戦しました。これまでも4種の大会などで対戦したことはありましたが、勝ったことがありませんでした。今回同じグループとなり、決勝トーナメント進出を左右する試合となりました。ここで3-0と勝利し、この勝利が子どもたちにとっては大きな自信になりました。本大会は、そのままの勢いで

駆け抜けたという感じです。

—一つの壁を破ったら、次々という感じですね。本大会そのものではないかと思ったのでしょうか。

佐藤 試合についてはではないのですが、どうしたら子どもたちが緊張しないで試合に臨めるのかを考えました。直前まで悩みましたが、埼玉からバスで3日間通うことにしました。お母さんの手料理をいただき、自分のベッドで寝ることがいいのではないかと思ったからです。泊まるという選択肢もありましたが、普段通りにしてあげることがいいのではないかと判断しました。

今の6年生たちの意識が高いというのもありましたね。

—大会会場(東京都)に比較的近いということは、メリットですね。また、慣れない環境というのは過緊張につながります。いい準備ができたということが、結果につながったということですね。

ただ、この結果も子どもたちにとっては通過点ですね。先日の「JFA第47回全日本U-12サッカー選手権大会埼玉県大会」では、



佐藤昌吉監督

残念ながらベスト8で終わりました。

佐藤 子どもたちは本当に悔しがっていました。「勝てた」と。でも、それがいいと思っています。次の第17回埼玉県第4種選手権大会も厳しい組み合わせですが、これも通過点。私としては、子どもたちが中学年代、高校年代、さらに大学でプレーを続けるのに困らないよう、知識、戦術、そして技術を指導していきたいと考えています。

とにかくトレーニングは楽しみながら。でも、常に試合を意識させています。その試合も、勝ち負けにこだわっていないわけではありませんが、子どもたちには「その先がある」ことを念頭に、伸びしろを持たせてあげたいですね。

—具体的にはどういふことでしょうか。

佐藤 例えば、小学生年代であまり試合に出ることができなくても、あきらめずにサッカーを続けていってくれば、成長していくものです。どこかでそういうタイミングが来ると考えています。大学まで考えれば、まだまだ先は長いのですから。そのためにも、子どもたちが将来、どんなクラブに進んでも困らないように指導しているつもりです。

ただ、1回くらい言っただけではわかってくれませんし、身につかないものです。何度も何度も。それこそ、半年、1年かけていけます。とにかく根気よくです。

実際、今の子どもたちは自分たちが子どもの頃に比べたら、とに

かくボール扱いが上手いですよ。でも、その技術が試合の中で生かすことができるのか？ プレーの選択を間違っていないか？ そんな問いかけを続けています。その成果として、試合中、子どもたちで修正してくれるんですね。観ていて面白いなと思うところです。

—最後に、これからに向けて一言いただけますか。

佐藤 主として4種で活動していますが、フットサルを通じて身に付けられる「切り替えの早さ」は重要だと思っています。また、この結果を得たことで子どもたちは「フットサルも面白いな」と思ってくれたようです。これからサッカーだけでなくフットサルも視野に入れて、続けてほしいなと思っています。

とにかく、プロ選手を輩出したいですね。

—「プロになりたい」という相談をされたときこそ、ご自身のプロでの経験が活きるんでしょうね。今後も期待しています。ありがとうございました。

佐藤昌吉監督

青森県出身。52歳、五戸高校を経てまだ日本リーグ時代のNKKに加入。その後、京都パープルサンガでJリーガーとなり、1999年に大宮アルディージャに移籍。同年で引退し、指導者の道へ。共栄大学などでの指導を経て、ヴィオレータFCを設立。自前の人工芝グラウンドを持つ。https://www.violeta.co.jp/



大会記録 ● 県内大会

1種

2023年度埼玉県社会人サッカーリーグ1部

●前期

順位	チーム	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失差
1	Tokyo International University	25	8	2	1	49	9	40
2	COEDO KAWAGOE F.C	22	7	3	1	36	12	24
3	越谷FC	19	6	4	1	32	15	17
4	東京国際大学ドリームス	19	7	3	1	26	12	14
5	大成シティフットボールクラブ坂戸	19	6	4	1	23	15	8
6	ACアルマレッザ入間	19	6	4	1	23	21	2
7	与野蹴魂会	17	6	3	2	39	18	21
8	さいたまSC	16	5	5	1	27	18	9
9	大里FC	12	3	5	3	13	20	-7
10	CALIENTE KUMAGAYA	10	3	7	1	35	18	17
11	さいたまSCセカンド	4	1	8	1	7	29	-22
12	江南プロッコリーズSA	1	0	10	1	8	129	-121

●後期

順位	チーム	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失差
1	Tokyo International University	15	5	0	0	15	2	13
2	越谷FC	9	3	2	0	8	7	1
3	東京国際大学ドリームス	7	2	2	1	7	10	-3
4	COEDO KAWAGOE F.C	6	2	3	0	13	10	3
5	ACアルマレッザ入間	4	1	3	1	7	10	-3
6	大成シティフットボールクラブ坂戸	3	1	4	0	1	12	-11
順位	チーム	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失差
7	さいたまSC	15	5	0	0	50	2	48
8	大里FC	10	3	1	1	20	10	10
9	与野蹴魂会	7	2	2	1	31	12	19
10	さいたまSCセカンド	7	2	2	1	19	5	14
11	CALIENTE KUMAGAYA	4	1	3	1	9	13	-4
12	江南プロッコリーズSA	0	0	5	0	2	89	-87

※優勝した Tokyo International University を含む上位4チームが「関東社会人サッカー大会」へ出場

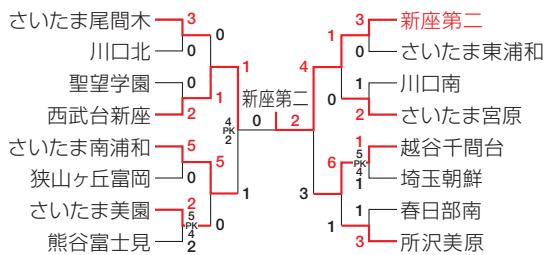


東京国際大学ドリームス vs さいたまSC

3種

令和5年度 学校総合体育大会

7月15日～28日 NACK5スタジアム大宮ほか



※優勝した新座第二中と準優勝の西武台新座中が関東中学大会に出場



優勝 新座第二中



準優勝 西武台新座中



決勝 新座第二中 vs 西武台新座中

高円宮杯 JFA U-15 サッカーリーグ 2023 埼玉 第16回埼玉県ユース(U-15)サッカーリーグ 1部

順位	チーム	勝点	勝	分	負	得点	失点	得失差
1	1FC川越水上公園	46	15	1	2	55	10	45
2	C.A.アレグレ	42	13	3	2	43	16	27
3	坂戸ディプロマッツ	34	10	4	4	25	14	11
4	東松山ペレーニア	31	8	7	3	34	18	16
5	ACアスミ	29	9	2	7	22	9	13
6	成立ゼブラ	25	7	4	7	37	30	7
7	三郷Jr	19	5	4	9	13	23	-10
8	カムイJr	15	4	3	11	14	43	-29
9	GRAMADO	10	2	4	12	14	35	-21
10	見沼FC	2	0	2	16	10	69	-59

高円宮杯 JFA 第35回全日本 U-15 サッカー選手権大会 埼玉県予選

8月26日～9月23日 県内各地

●代表決定戦

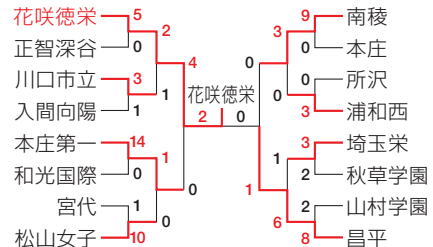
- 第1代表 1FC川越水上公園 1-2 FC深谷
- 第2代表 坂戸ディプロマッツ 4-0 ソルース埼玉
- 第3代表 東松山ペレーニア 1-0 FCコルージャ
- 第4代表 成立ゼブラ 3-1 南浦和中
- 第5代表 ACアスミ 4-0 川口西中
- 第6代表 カムイJr 1-0 HAN FC
- 第7代表 FC KAWAGUCHI 1-2 FC ASAS
- 第8代表 新座二中 3-2 武南 Jr

※それぞれの勝者は関東大会に出場する

女子

令和5年度 埼玉県高校女子選手権大会及び関東大会予選

8月25日～9月24日 埼玉スタジアム第3グラウンド他



※花咲徳栄は3年連続6回目の優勝。準優勝の昌平と共に、関東大会へ出場。3位南陵、4位本庄第一は関東秋季大会へ出場



優勝 花咲徳栄



準優勝 昌平



埼玉県高校女子選手権大会決勝 花咲徳栄 vs 昌平

2023第28回埼玉県女子ユース(U-15)サッカー大会・関東大会予選

9月2日～30日 SFAフットボールセンター他

大宮アルディージャVENTUS U15	13	6	1FC川越水上公園メニナU-15
越谷レディースファミリー	1	1	Bruder SV Frauen
FCフェミニノ川越	4	1	大宮FCエンジェルス
熊谷リリーズジュニアユース	8	2	クマガヤサッカースポーツクラブ
カサブランカ	0	2	ライラック
F-Monte U-15・FC	0	2	AzuLente KAZO Glanz FC
スペアールtoda U-15合同	0	2	フィリアフットボールクラブ
戸塚FCガールズU15	1	3	GRAMADO FC TOKINAN
クラブ与野レディース	2	13	

※優勝した大宮アルディージャ VENTUS U-15、準優勝の GRAMADO FC TOKINAN が関東大会に出場

大会記録●県外大会

1種

天皇杯 JFA 第103回全日本サッカー選手権大会

●ラウンド16

8月2日 CSアセット港サッカー場

名古屋グランパス 3-0 浦和レッズ

社会人

2023年度(第57回)関東サッカーリーグ

●1部

順位	チーム	勝点	勝	分	負
7	東京国際大学FC	22	6	4	8

フェアプレー賞 東京国際大学 FC フェアプレーポイント 12

●2部

順位	チーム	勝点	勝	分	負
4	アヴェントゥーラ川口	26	8	2	8

ベストイレブン DF 高瀬優孝(アヴェントゥーラ川口)

第57回(2023年)関東社会人サッカー大会

11月4日～19日 千葉県内各地

1回戦	SHIBUYA CITY	1-0	越谷 FC
	荻崎アストロス FC	1-3	COEDO KAWAGOE F.C
	Tokyo International University	2-1	房総ローヴァーズ木更津 FC
	YOKOHAMA FIFTY CLUB	2-0	ACアルマレッザ入間
2回戦	COEDO KAWAGOE F.C	2-1	栃木シティU-25
	Tokyo International University	1-3	FC N.
準決勝	SHIBUYA CITY	1-2	COEDO KAWAGOE F.C
決勝	COEDO KAWAGOE F.C	1-2	FC N.

※ COEDO KAWAGOE F.C (埼玉第3代表【リーグ戦は4位】) が準優勝となり、優勝した FC N. (東京第2代表) と共に関東サッカーリーグ2部に昇格する

第30回全国クラブチームサッカー選手権大会関東予選会

8月26日、27日 神奈川県立スポーツセンター

1回戦 FCペンテット 1-3 ザスバ草津チャレンジャーズ
 ※ONODERA FC (神奈川県)、FC PICARO (千葉県) が本大会に出場

自治体

第50回関東自治体職員サッカー選手権大会

10月28日～31日 栃木県総合運動公園サッカー場

1回戦	さいたま市役所	7-0	笛吹市役所
	龍ヶ崎市役所	0-0	所沢市役所 (2PK4)
2回戦	さいたま市役所	0-1	太田市役所
	習志野市役所	2-0	所沢市役所

※優勝は太田市役所。上位3チームが本大会に出場

大学

2023年度第2回関東大学サッカーリーグ Norte 1部

順位	チーム	勝点	勝	分	負
2	尚美学園大学	39	12	3	2
3	駿河台大学	37	12	1	4
4	獨協大学	25	7	4	6
6	埼玉工業大学	20	6	2	9
7	埼玉大学	14	4	2	11
8	東洋大学川越	13	3	4	10

※2位の尚美学園大学は「2023年度第56回関東大学サッカー大会(関東大学サッカーリーグ戦[3部]参入戦)」に出場

2種・高体連

令和5年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会

7月25日～8月4日 花咲スポーツ公園陸上競技場他

2回戦 金光大阪高校 1-1 武南高校 (5PK3)

※優勝は明秀日立高校



武南高校



2回戦 武南 vs 金光大阪



2回戦 武南 vs 金光大阪

2種・クラブ

第47回日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会

7月23日～8月2日 味の素フィールド西が丘他

●グループステージ

A グループ **大宮アルディージャ** 3 - 2 アルビレックス新潟
大宮アルディージャ 1 - 0 栃木 SC
大宮アルディージャ 2 - 3 サガン鳥栖

※大宮アルディージャはグループ1位

G グループ **浦和レッズ** 2 - 0 ブラウブリッツ秋田
浦和レッズ 1 - 1 清水エスパルス
 コンサドーレ札幌 3 - 1 **浦和レッズ**

※浦和レッズはグループ3位

●ラウンド16

大宮アルディージャ 0 - 2 鹿島アントラーズ

※優勝はガンバ大阪

令和5年度全国高等学校定時制通信制体育大会第33回サッカー大会

7月28日～8月1日 IAI スタジアム日本平他

1回戦 飾磨工業高校 2 - 0 **日々輝学園高校(埼玉3)**
 豊橋工科高校 1 - 2 **吹上秋桜高校(埼玉1)**

クラーク記念国際さいたま高校(埼玉2) 0 - 7 静岡中央高校

2回戦 一橋高校 2 - 1 **吹上秋桜高校**

※優勝は一橋高校(東京1)

3種

関東U-15リーグ1部

順位	チーム	勝点	勝	分	負
1	大宮アルディージャU15	37	11	4	3
6	FC LAVIDA	27	8	3	7
8	浦和レッズJY	21	6	3	9

関東U-15リーグ2部A

順位	チーム	勝点	勝	分	負
2	クラブ与野	41	13	2	3
7	GRANDE FC	22	7	1	10

関東U-15リーグ2部B

順位	チーム	勝点	勝	分	負
9	クマガヤSC	13	3	4	11

※1部は大宮アルディージャが優勝。2部Aで2位となったクラブ与野は1部参入戦に出場。2部Bで9位のクマガヤSCは県リーグに降格する

中体連

第54回関東中学校サッカー大会

8月6日～9日 アースケア敷島サッカー・ラグビー場他

1回戦 修徳中学校 2 - 1 **西武台新座中学校**
 城里町立常北中学校 1 - 5 **新座市立第二中学校**

2回戦 **新座市立第二中学校** 0 - 2 松戸市立常盤平中学校

代表決定戦 **新座市立第二中学校** 2 - 1 高崎市立長野郷中学校

(延長)

※雷のため、準決勝・決勝は中止。4校同時優勝となった。新座市立第二中学校は本大会に出場

令和5年度全国中学校体育大会第54回全国中学校サッカー大会

8月19日～24日 Pikaraスタジアム他

1回戦 **新座市立第二中学校** 3 - 1 アサンブション国際中学校

2回戦 さぬき市立さぬき南中学校 2 - 1 **新座市立第二中学校**

※優勝は神村学園中等部

クラブ

第29回関東クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 兼

第38回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会・関東予選

6月3日～7月2日 くぬぎ平スポーツ広場他

1回戦 **CAアレグレ** 0 - 2 VITTORIAS FC

ザスパクサツ群馬 1 - 2 **ACアスミ**

HORTENCIA 2 - 3 **FC深谷**

2回戦 **FC深谷** 0 - 2 東急スレイエスFC U-15

VIVAIO船橋 1 - 3 **成立ゼブラ**

Consorte 0 - 3 **FC LAVIDA**

SCH.FC 1 - 2 **クラブ与野**

大宮アルディージャU-15 4 - 1 ACカラクトル

浦和レッドダイヤモンドJY 4 - 1 東京久留?FC

GRANDE FC 0 - 1 トリプレッタSC

柏レイソルA.A.TOR'82 1 - 1 **クマガヤSC**

(PK3-4)

ジェフユナイテッド市原・千葉U-15 4 - 0 **ACアスミ**

USスポーツクラブU-15 1 - 1 **坂戸ディプロマッツ**

(7PK6)

3回戦 **大宮アルディージャU-15** 1 - 2 ジェファFC

成立ゼブラ 1 - 5 東急スレイエスFC U-15

鹿島アントラーズ 4 - 0 **クマガヤSC**

FC東京U-15深川 0 - 1 **クラブ与野**

浦和レッドダイヤモンドJY 1 - 1 ワセダクラブForza'02

(2PK3)

柏レイソル 1 - 2 **FC LAVIDA**

ラウンド16 **ワセダクラブForza'02** 1 - 1 **FC LAVIDA**

(3PK4)

クラブ与野 1 - 4 FC多摩

準々決勝 **FC LAVIDA** 3 - 1 三菱養和SC調布JY

準決勝 東急スレイエスFC U-15 2 - 3 **FC LAVIDA**

決勝 FC多摩 2 - 3 **FC LAVIDA**

※FC LAVIDA が優勝。関東代表13となったクラブ与野も含めて本大会へ出場

第38回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会

8月15日～24日 帯広の森陸上競技場他

●グループステージ

Jグループ 京都サンガF.C. 0 - 3 **クラブ与野**

刈谷JY 1 - 2 **クラブ与野**

ジェファFC 1 - 0 **クラブ与野**

※クラブ与野はグループ2位

Lグループ **FC LAVIDA** 3 - 0 サガン唐津

FC LAVIDA 5 - 0 ツエーゲン金沢

FC LAVIDA 2 - 0 ガンバ大阪

※FC LAVIDA はグループ1位

●ノックアウトステージ

ラウンド32 **FC LAVIDA** 1 - 2 フェルポール愛知

清水エスパルス 0 - 1 **クラブ与野**

ラウンド16 **クラブ与野** 1 - 2 ヴィッセル神戸

※優勝はFC多摩

4種

2023 フジパン CUP 第47回関東 U-12 サッカー大会 in 東京・山梨

8月26日、27日 くぬぎ平スポーツ広場

●グループリーグ

荒天による途中中止のため抽選で順位決定

●決勝トーナメント

1回戦	1FC川越水上公園	0 - 3	GINGA F.C.
	大宮アルディージャU12	2 - 0	FC TUCANO
準決勝	GINGA F.C.	0 - 2	大宮アルディージャU12
決勝	SCH FC	1 - 0	大宮アルディージャU12

※優勝は SCH FC (神奈川県)

女子

関東女子サッカーリーグ1部

順位	チーム	勝点	勝	分	負
6	東京国際大学	15	4	3	7

関東女子サッカーリーグ2部

順位	チーム	勝点	勝	分	負
7	大東文化大学	12	4	0	10
8	1FC川越水上公園メニーナ	6	2	0	12

関東女子大学サッカーリーグ1部

順位	チーム	勝点	勝	分	負
10	東京国際大学	15	4	3	15
12	大東文化大学	13	3	4	15

関東女子大学サッカーリーグ2部

順位	チーム	勝点	勝	分	負
4	武蔵丘短期大学	31	10	1	7
5	尚美学園大学	30	9	3	6

関東女子大学サッカーリーグ3部

順位	チーム	勝点	勝	分	負
3	城西大学	31	10	1	3
5	文教大学	16	5	1	8

第45回関東女子サッカー選手権大会 兼

皇后杯 JFA 第45回全日本女子サッカー選手権大会関東予選

9月2日~17日 東総運動場陸上競技場他

1回戦 東京国際大学女子サッカー部 1 - 0 山梨学院レッドサンダーズ

2回戦 東京国際大学女子サッカー部 1 - 1 三菱重工浦和レッズレディースユース (4PK1)

準々決勝 日本大学 1 - 0 東京国際大学女子サッカー部

5、6位決定戦(2つのうちの1つ)

東京国際大学女子サッカー部 1 - 4 東洋大学体育会サッカー部女子部

※優勝は帝京平成大学。上位6チームが本大会へ出場する

第19回関東高校女子サッカー秋季大会

10月21日~28日 星槎箱根仙石原総合型スポーツクラブグラウンド他

1回戦 白鷗大学足利高校 0 - 1 本庄第一高校

南稜高校 13 - 0 合同(石岡第二・水海道第二高校)

2回戦 本庄第一高校 0 - 3 明秀学園日立高校

南稜高校 1 - 0 高崎商科大学附属高校

準決勝 都立飛鳥高校 0 - 1 南稜高校

決勝 都立杉並総合高等学校 1 - 0 南稜高校

※優勝は都立杉並総合高等学校。南稜高校は準優勝

第28回関東女子ユース(U-15)サッカー選手権大会 兼

高円宮妃杯JFA第28回全日本女子U-15サッカー選手権大会

関東予選

10月29日~11月5日 SFAフットボールセンター他

1回戦 大宮アルディージャVENTOS U15 0 - 0 GRAMADO FC TOKINAN (2PK4)

代表決定戦

ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-15 2 - 0 GRAMADO FC TOKINAN

スフィーダ世田谷FCユース 0 - 2 ちふれエルフェン埼玉マリU-15

東小沢FCバンビーナ 0 - 9 INAC白岡SCレディース

※関東リーグ1位の浦和レッズレディースジュニアユースとちふれエルフェン埼玉マリU-15、INAC白岡SCレディースが本大会に出場

シニア

KTFA 第18回関東O-60サッカー大会

9月9日、10日 押原公園

A組 習志野台クラブシニア 4 - 0 SAITAMAパルスFC60

SAITAMAパルスFC60 1 - 0 山梨シニア

SAITAMAパルスFC60 0 - 1 横須賀アズール60

5位決定戦 SAITAMAパルスFC60 1 - 0 FC前橋60

※SAITAMAパルスFC60は5位。優勝は渋谷区FCミドル60

KTFA 第17回関東O-50サッカー大会

10月28日、29日 神奈川県立スポーツセンター

A組 Azul神奈川FC 0 - 0 越谷シニアSC O-50

越谷シニアSC O-50 5 - 0 ヴェルフェシニア50

越谷シニアSC O-50 1 - 2 千葉四十雀SC50

5位決定戦 越谷シニアSC O-50 1 - 0 ラッツォス古河F.C

※優勝はTドリームス50

JFA バーモントカップ第33回全日本U-12フットサル選手権大会

8月8日~10日 大田区総合体育館他

●グループリーグ

Jグループ プレジャーSC(佐賀県) 0 - 11 ヴィオレータFC

ヴィオレータFC 9 - 5 加茂南浦SCクラージュ(新潟県)

ヴィオレータFC 3 - 6 ヴィッセル神戸U-12

●決勝ラウンド

ラウンド16 アグレミーナ浜松U-12 1 - 5 ヴィオレータFC

準々決勝 ドリームFC(大阪府) 5 - 8 ヴィオレータFC

準決勝 FCデノバ札幌 5 - 6 ヴィオレータFC

決勝 ヴィオレータFC 8 - 7 ジンガFC(千葉県)

※優勝はヴィオレータFC(初)

ビーチサッカー

2023年第6回関東少年少女ビーチサッカー大会

8月27日 平井海岸ビーチサッカー場(茨城県鹿嶋市)

●予選リーグ

Bグループ

If Levante Futbol Clube U-12 5 - 2 美杉FC

メテオロッサ常陸大宮フットサルスクール 1 - 6 If Levante Futbol Clube U-12

※If Levante Futbol Clube U-12はグループ1位

Dグループ

If Levante Futbol Clube U-11 3 - 3 レーヴェ横浜kinder

鹿島SSS 1 - 2 If Levante Futbol Clube U-11

※If Levante Futbol Clube U-11はグループ2位

●決勝トーナメント

準々決勝

If Levante Futbol Clube U-12 2 - 4 If Levante Futbol Clube U-11

準決勝

If Levante Futbol Clube U-11 2 - 5 Peace United FC

3位決定戦

レーヴェ横浜kinder 4 - 2 If Levante Futbol Clube U-11

※優勝はアペーリヤス千葉

連載でお届けしている「RESPACT」企画の第3弾として、今回は指導者養成の場におけるお話を伺いました。あらためて思うことは、フェアプレーとはスポーツの原理・原則であって、教えたり話をするだけでは文化として醸成するものではない、ということ。相手がいるから成り立つ…そのことを実感することが「RESPECT」の第一歩です。フェアプレーの空気に包まれた環境づくりに、より一層のご協力をお願いいたします。(藤田)

